

次世代がん研究戦略推進プロジェクト

文部科学省
 早期診断・治療を可能とする技術、医療品、機器の開発
 平成23年度概算要求額: 3,800百万円のうち、3,700百万円

背景・課題

- がんは **日本国民の最大の死亡原因**。現在では3人に1人、近い将来国民の半数が、がんにより死亡すると予測。
- 国内の基礎的がん研究の優れた成果が、バイオベンチャーの不在等により、次世代がん医療の開発に生かされないため、①日本発の医薬品が上市されず欧米企業の医薬品が世界市場を席卷し、②日米の基礎研究に対する公的投資の格差が拡大しており、**研究開発の失速、研究人材の散逸、国際競争力の低下、がん克服に向けた展望の途絶**などが懸念。

対応

- 限られた資源を社会的なニーズの高い、**膵がん・肺がん・肝がん**を初めとする難治がんに集約し、**世界をリードする研究領域・研究者へ戦略的に重点配分**
- **革新的な基礎研究の成果(有望シーズ)**を厳選、**戦略的に育成**し、臨床研究へと研究を加速。

目標

簡便、高精度かつ非侵襲な早期診断法の開発
再発・転移を抑える画期的な治療法の開発
革新的ながん根治療法の開発

次世代がん医療の実現

概要・実施体制

次世代がん医療創生研究HQ

- ・研究方針の決定
- ・プログラム全体のマネジメント
- ・国内外のがん研究動向調査
- ・ステークホルダーを含めた会議の開催
- ・各チームが共有する研究支援基盤の整備等を実施

革新的がん医療シーズ育成チーム

ex. 革新的な新規分子標的
 → 分子標的としての有用性の確認、これに対する阻害剤等の化合物の探索、実験動物の機能解析系における検証等の一連のプロセスを一体的に推進する複数のチームを結成

がん臨床シーズ育成チーム

ex. 新規バイオマーカー
 → ヒトがん発生・進展の分子機構に対する深い洞察に基づき設定される幾つかの研究テーマの下に、国内の臨床研究者を結集した複数のチームが、リバースTR研究を推進

がん薬物療法の個別適正化プログラム

ファーマコゲノミクスの成果の臨床応用に向けた取組を推進

